

平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年1月27日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 ソフトフロント

コード番号 2321 URL <http://www.softfront.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 阪口 克彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 財務・管理統括担当 (氏名) 佐藤 健太郎

TEL 03-3568-7007

四半期報告書提出予定日 平成24年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	498	7.8	△116	—	△119	—	△121	—
23年3月期第3四半期	461	11.4	△103	—	△102	—	△104	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	△1,315.68	—
23年3月期第3四半期	△1,139.24	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	691	642	92.4
23年3月期	845	760	89.9

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 639百万円 23年3月期 760百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	850	8.5	30	177.7	30	167.9	27	218.7	293.47

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	92,002 株	23年3月期	92,002 株
24年3月期3Q	— 株	23年3月期	— 株
24年3月期3Q	92,002 株	23年3月期3Q	92,002 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、業績予想等に全面的に依存した投資等の判断は差し控えます。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(決算説明会内容の入手方法)

決算説明会(機関投資家・アナリスト向け)の資料は、説明会終了後に当社ホームページに掲載する予定であります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	P. 2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	P. 2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	P. 2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	P. 3
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	P. 3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	P. 3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	P. 3
(3) 追加情報 .....	P. 3
3. 四半期財務諸表 .....	P. 4
(1) 四半期貸借対照表 .....	P. 4
(2) 四半期損益計算書 .....	P. 5
第3四半期累計期間 .....	P. 5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	P. 6
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	P. 7
(5) セグメント情報等 .....	P. 7
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	P. 7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間（平成23年4月1日～平成23年12月31日）におけるわが国経済は、東日本大震災の影響で大幅に悪化した状況の中、その後の着実な復旧により震災前の水準に戻りつつあるものの、欧州債務問題や欧米財政不安が依然として予断を許さず、またイラン情勢の緊迫などにより、消費低迷や円高懸念など依然として不透明な状況であります。

このような経済環境の下、当社事業に関係する通信関連分野では、スマートフォンやタブレット端末の需要が堅調であり、NTTグループのNGN（Next Generation Network）サービスの拡充や高速通信を可能とするLTE（Long Term Evolution）技術によるサービスの多様化など進展は見られるものの、設備投資の回復ペースは依然として緩やかな状況にあります。

これらの市場環境の下、当社の当第3四半期累計期間の業績は、売上高498,137千円、営業損失116,702千円、経常損失119,230千円、四半期純損失121,045千円となりました。

売上高につきましては、「Android」（スマートフォンやタブレット端末向けのプラットフォーム）を用いた組み込み機器開発の受注が好調であったことなどにより、498,137千円（前年同期比7.8%増）と前年同期実績を36,232千円上回る増収となりました。

売上原価につきましては、主に増加した受託開発案件に対応するための人件費の増加などにより、311,304千円（前年同期比20.3%増）と増加しております。このように売上高が増加したものの、売上原価の増加の方が上回ったため、売上総利益につきましては、186,832千円（前年同期比8.0%減）と前年同期実績を16,213千円下回りました。

販売費及び一般管理費につきましては、主に全般的な経費削減に努めたことにより、303,534千円（前年同期比0.9%減）と減少いたしました。

これらの結果、営業損益につきましては、116,702千円の営業損失（前年同期は103,180千円の営業損失）を計上しております。

経常損益につきましては、営業外収益41千円（前年同期比88.6%減）を計上し、新株予約権の発行費用などの営業外費用2,569千円（前年同期はなし）を計上したため、119,230千円の経常損失（前年同期は102,813千円の経常損失）を計上いたしました。

税引前四半期純損益につきましては、特別利益の計上はなく（前年同期は65千円の特別利益）、特別損失の計上もなかったため（前年同期は249千円の特別損失）、119,230千円の税引前四半期純損失（前年同期は102,997千円の税引前四半期純損失）を計上いたしました。

四半期純損益につきましては、法人税、住民税及び事業税を1,815千円計上したことにより、121,045千円の四半期純損失（前年同期は104,812千円の四半期純損失）を計上いたしました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①ソフトウェア販売

売上高につきましては、ライセンス収入は堅調に推移しているものの、前事業年度好調であった電力系通信事業者向けのシステムインテグレーション分野における需要の一服感で受注が減少したことにより、102,807千円（前年同期比33.8%減）と減少いたしました。売上原価につきましては、人件費の減少などにより、56,034千円（前年同期比19.4%減）と減少いたしました。これにより、セグメント利益46,772千円（前年同期比45.5%減）を計上しております。

#### ②受託開発

受注が好調であったことなどにより、売上高につきましては、390,435千円（前年同期比27.3%増）と前年同期に比べて増加いたしました。売上原価につきましては、主に開発案件に対応するための人件費の増加により、251,922千円（前年同期比33.0%増）と増加いたしました。これにより、セグメント利益138,512千円（前年同期比18.1%増）を計上しております。

#### ③その他

売上高につきましては、4,894千円（前年同期は計上なし）を計上し、売上原価につきましては、3,347千円（前年同期は計上なし）を計上いたしました。これにより、1,547千円のセグメント利益（前年同期は計上なし）を計上しております。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

（当第3四半期会計期間末の資産、負債及び純資産の状況）

当第3四半期会計期間末の総資産につきましては、691,948千円（前事業年度末比18.2%減）となりました。

流動資産につきましては、現金及び預金が257,190千円（前事業年度末比12.5%減）と減少し、売掛金が234,353千円（前事業年度末比37.6%減）と減少したことなどにより、512,127千円（前事業年度末比24.7%減）となりました。

有形固定資産につきましては、資産の減価償却が進んだことなどにより、12,756千円（前事業年度末比15.3%減）となりました。

無形固定資産につきましては、過年度に計上した自社開発ソフトウェアの減価償却が進んだものの、主に自社開発ソフトウェアMFP11（MFPプログラム2011）の開発などを行い増加したことにより、115,332千円（前事業年度末比10.7%増）となりました。

投資その他の資産につきましては、デジタルポスト株式会社への出資などにより、51,732千円（前事業年度末比10.7%増）となりました。

当第3四半期会計期間末の負債総額につきましては、49,080千円（前事業年度末比42.6%減）となりました。

流動負債につきましては、主に未払金などが減少したことから、49,080千円（前事業年度末比42.6%減）となりました。

固定負債につきましては、計上はありません（前事業年度末も計上なし）。

当第3四半期会計期間末の純資産につきましては、四半期純損失を121,045千円計上したことに伴い、利益剰余金が減少し、642,868千円（前事業年度末比15.4%減）となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当第3四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、営業活動による資金の獲得25,203千円、投資活動による資金の消費63,031千円、財務活動による資金の獲得1,228千円により、前事業年度末に比べて36,598千円減少し、257,190千円（前事業年度末比12.5%減）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は25,203千円（前年同期は47,118千円の資金の消費）となりました。これは主に税引前四半期純損失119,230千円を計上した一方で、売上債権を141,042千円回収したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果消費された資金は63,031千円（前年同期は57,697千円の資金の消費）となりました。これは主にソフトウェアの取得による支出59,377千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は1,228千円（前年同期は計上なし）となりました。これは新株予約権の発行による収入1,228千円によるものであります。

### （3）業績予想に関する定性的情報

平成23年5月13日に公表した平成24年3月期の業績予想からの変更はありません。

NTTグループが進めているNGNの商用サービスは徐々に進展し、データコネクトなどの新しいサービスも少しずつ実現しています。さらに、スマートフォンの爆発的な普及や様々なタブレット型端末の出現など、当社が得意とする事業分野の市場が拡大する傾向にあります。一方、国内の消費低迷や円高、海外の経済減速懸念などが景気動向に影響を及ぼすと考えられ、当社事業においても何らかの影響があることが考えられます。

このような市場環境において、当社事業では、中期経営方針に基づき進めてきた「収益基盤の拡大」が着実に成果を出し始めております。NTTグループ関連、大手メーカーの商用製品、サービス関連のソフトウェア販売、開発案件などが徐々に増加してきており、今後も安定的な受注と収益の向上が期待できます。これら「収益基盤の拡大」として成果を上げてきた活動を、更なる顧客獲得やNTTグループとの業務資本提携とOakキャピタル株式会社との業務資本提携を活用した営業活動で積極的に進めると共に、商用ライセンス、製品提供の増加を図ります。

（注）業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる可能性がありますので、この業績予想に全面的に依存した投資等の判断は差し控え願います。

## 2. サマリー情報（その他）に関する事項

### （1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

当第3四半期累計期間において四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用はありません。

### （2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

当第3四半期累計期間において会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示はありません。

### （3）追加情報

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

第1四半期会計期間の期首以後に行なわれる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	293,789	257,190
売掛金	375,396	234,353
原材料及び貯蔵品	292	212
その他	10,988	20,842
貸倒引当金	△754	△471
流動資産合計	679,712	512,127
固定資産		
有形固定資産	15,058	12,756
無形固定資産		
ソフトウェア	99,990	111,264
その他	4,208	4,068
無形固定資産合計	104,198	115,332
投資その他の資産		
差入保証金	46,732	46,732
その他	23,514	25,142
貸倒引当金	△23,514	△20,142
投資その他の資産合計	46,732	51,732
固定資産合計	165,990	179,821
資産合計	845,702	691,948
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	10,972	8,320
未払法人税等	9,302	4,399
製品保証引当金	685	746
その他	64,561	35,614
流動負債合計	85,522	49,080
負債合計	85,522	49,080
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,792,479	2,792,479
資本剰余金	2,574,639	2,574,639
利益剰余金	△4,606,938	△4,727,983
株主資本合計	760,180	639,135
新株予約権	—	3,733
純資産合計	760,180	642,868
負債純資産合計	845,702	691,948

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	461,905	498,137
売上原価	258,859	311,304
売上総利益	203,045	186,832
販売費及び一般管理費	306,226	303,534
営業損失(△)	△103,180	△116,702
営業外収益		
受取利息	32	17
その他	334	24
営業外収益合計	366	41
営業外費用		
新株予約権発行費	—	2,504
その他	—	64
営業外費用合計	—	2,569
経常損失(△)	△102,813	△119,230
特別利益		
貸倒引当金戻入額	65	—
特別利益合計	65	—
特別損失		
固定資産除却損	249	—
特別損失合計	249	—
税引前四半期純損失(△)	△102,997	△119,230
法人税、住民税及び事業税	1,815	1,815
法人税等合計	1,815	1,815
四半期純損失(△)	△104,812	△121,045

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失 (△)	△102,997	△119,230
減価償却費	50,378	50,866
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△65	△282
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	△181	60
受取利息及び受取配当金	△32	△17
新株予約権発行費	—	2,504
固定資産除却損	249	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△18,783	141,042
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,658	79
仕入債務の増減額 (△は減少)	△21,008	△2,652
未収入金の増減額 (△は増加)	46,735	△878
未収消費税等の増減額 (△は増加)	258	—
未払消費税等の増減額 (△は減少)	4,413	△12,564
その他	△5,357	△31,321
小計	△44,731	27,606
利息及び配当金の受取額	33	17
法人税等の支払額	△2,420	△2,420
営業活動によるキャッシュ・フロー	△47,118	25,203
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,707	—
ソフトウェアの取得による支出	△52,539	△59,377
貸付けによる支出	△580	△66
貸付金の回収による収入	1,177	—
その他	△2,048	△3,586
投資活動によるキャッシュ・フロー	△57,697	△63,031
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
新株予約権の発行による収入	—	1,228
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	1,228
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△104,816	△36,598
現金及び現金同等物の期首残高	335,802	293,789
現金及び現金同等物の四半期末残高	230,986	257,190

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

区分	報告セグメント			その他 (注1)	合計	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	ソフトウェア 販売	受託開発	計			
売上高						
外部顧客への 売上高	155,275	306,629	461,905	—	461,905	461,905
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	155,275	306,629	461,905	—	461,905	461,905
セグメント利益	85,787	117,258	203,045	—	203,045	203,045

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物品販売などを含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の売上総利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

区分	報告セグメント			その他 (注1)	合計	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	ソフトウェア 販売	受託開発	計			
売上高						
外部顧客への 売上高	102,807	390,435	493,242	4,894	498,137	498,137
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	102,807	390,435	493,242	4,894	498,137	498,137
セグメント利益	46,772	138,512	185,284	1,547	186,832	186,832

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物品販売などを含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の売上総利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。